

アグリ高島



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

2022年11月号
No.246



たかしま野菜・園芸塾開講中！

～園芸品目の生産販売
を始めませんか～

新たな園芸品目の出荷に取り組みたいと考える方を対象に、「たかしま野菜・園芸塾」を、高島地域農業センターと共に開催しています。今年で3年目の取り組みで、毎年約10名が受講されています。過去の受講者の中には、直売所の主要な出荷者となり活躍している方もおられます。

今年度は、市内の先輩農家のほ場（ナス・かぼちゃ・メロン・いちじく・花き類等）を訪ねて栽培や経営の秘訣を教わったり、JAレーク滋賀の協力でビニールハウスを借りて、トマトやメロンの栽培を自ら実践する活動を行っています。高島の野菜や花、果物を求める声に応え、儲かる農業を実現するため、日々楽しみながらも夢を抱いて努力されています。

本活動や園芸品目の栽培に興味ある方は農産普及課までご連絡ください。

発行 滋賀県高島農業農村振興事務所農産普及課（〒520-1621 高島市今津町今津 1758）

TEL 0740-22-6025～6028

FAX 0740-22-3099

発行責任者：森 真里



この印刷物は、グリーン購入法適合紙を使用しています。

集落の農地は担い手と地権者が協力して守りましょう！

農家の減少と担い手への農地集積

高島市では農家の高齢化等により、2015年と比較して中小規模の経営体数が大きく減少する一方、10ha以上の経営体数に増加がみられ、担い手への農地集積が進んでいます。片や耕作放棄地や遊休農地は2018年の27haから2021年には54haとなり、3年間で倍増しています。担い手が収益性を向上するには、経営面積の拡大と効率的な作業管理が不可欠ですが、現状では耕作に出される農地を吸収しきれないでいます。その原因には農産物の価格低迷と農地が分散していることが考えられます。米に替えて麦類や大豆などの作付けを導入したり、分散農地を集約することで、収益の安定を図ることが可能です。これらの経営的な不安要素を地域が担い手と一体となって解消することが求められています。

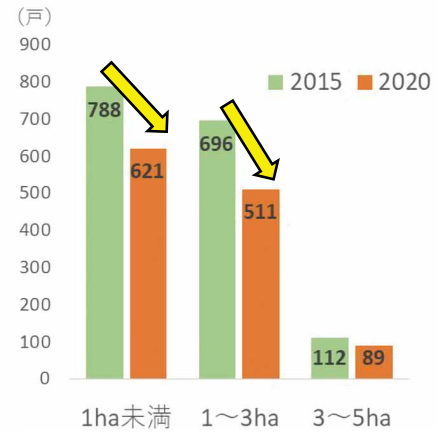


図1：高島市内の耕地面積別経営体数の変化（中小規模）

担い手の規模拡大には地権者の協力が必要です！

畦畔管理や水管理にかかる作業時間は、稲作の作業時間全体の20~30%を占めており、規模拡大の制限要因となっています。

担い手が今後、より多くの集落農地を管理できるようにするには、耕作者が農地に関する全ての作業を行うのではなく、地権者と耕作者間の話し合いにより畦畔の草刈りや水管理等を地権者が分担したり、地権者間の話し合いで農地を1か所にまとめるなどのメリット措置を集落側から提供できることが重要です。集落の農地は、担い手と地権者（集落）が協力しあって守っていきましょう。

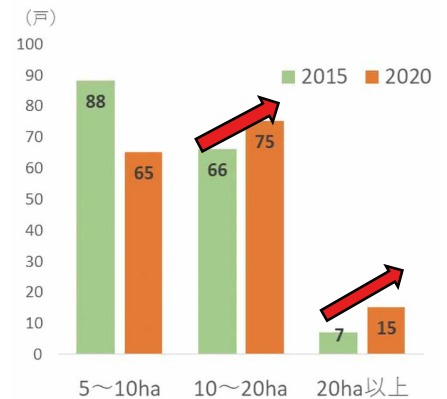
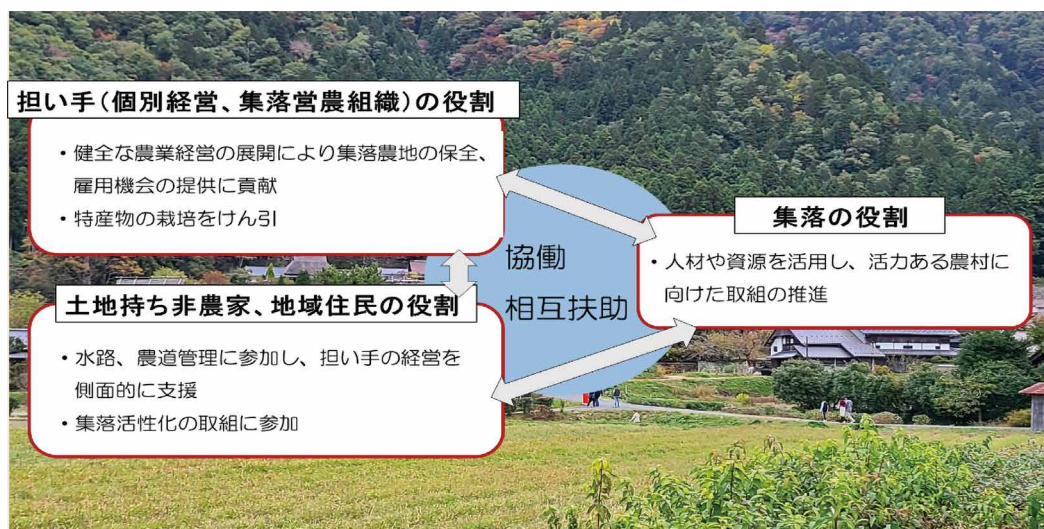


図2：高島市内の耕地面積別経営体数の変化（大規模）

作業	3ha未満	5ha以上	10ha以上	15ha以上
育苗	3.04	2.48	2.43	2.36
耕起整地	5.28	1.86	1.75	1.63
田植	3.97	2.09	2.01	1.98
畦畔・水管理	10.30	3.00	2.92	2.63
刈取脱穀	4.44	1.90	1.79	1.64
合計	33.82	14.33	13.75	13.04

出典：令和2年度農林水産省統計調査



コロナ禍での新たな販売にチャレンジ

～市内農家の取組紹介～

コロナ禍でも、新たな取組にチャレンジされている高島市内の元気な生産者を紹介します。

コロナ禍では、外出自粛等により外食向け需要が低下した一方で、在宅時間が増えたことで、食材を調達して家庭で調理する「巣ごもり消費」という新たな消費需要が生まれました。

「みなくちファーム」(マキノ町) ではネット販売で季節ごとの野菜の詰め合わせや、同一品目でも複数品種を詰め合わせた「食べ比べセット」などの提供を開始され好評です。多くの同業者がネット販売に参入する中、このような工夫や有機JAS認証の取得など他には無い付加価値をつけることが重要と考えておられます。

「宝牧場」(朽木) では、自社が運営する通信販売に加え、新たに民間通販サイトへ参画されました。その結果、全国からの注文が増え、販路拡大に繋がりました。通信販売は手間がかかりますが、消費者の声やリピーターの注文はスタッフにとって励みとなり、新商品開発へのヒントを得る機会となっています。



有機JAS認証取得で付加価値を追求

宝牧場

1. テレビショッピング
○放送日

- ・ 9 時29 分から テレビ東京
- ・ 11 時30 分から テレビ大阪、テレビ愛知、テレビせとうち、TVQ九州放送
- ・ 12 時00 分から BSテレビ東京

※知事、西川大使のメッセージ動画放送予定

2. 販売品目



TVショッピングによる新規顧客開拓

ハウス内環境の見える化で収量向上にチャレンジ

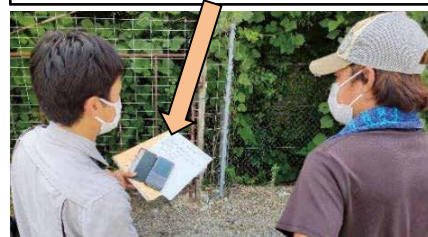
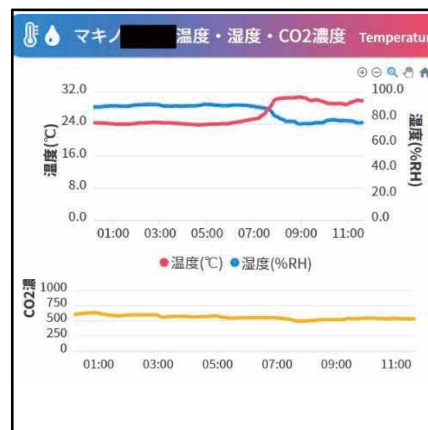
高島市内のイチゴ施設栽培農家が、ハウス内の栽培環境の「見える化」に取り組んでいます。

見える化の目的はハウス内の栽培環境(温度・湿度・二酸化炭素等)のデータを収集し、そのデータを活用して光合成能力を高める栽培管理等を行い、品質や収量向上に繋げることです。

蓄積されたデータは、栽培者間の比較でより正確な技術研鑽が可能となり、次年度以降の栽培や新規就農者などの経験の浅い生産者の参考として活かすことができます。

現在、マキノ、今津、安曇川の3戸の環境データを測定し、データをインターネット上のクラウドで共有し、栽培環境を比較する取組を行っています。その中の1戸では農産普及課とも測定データを共有し、必要に応じてCO₂の施用や加温をタイムリーに行うことで収量向上を目指す試験に取り組む予定です。

取組に興味ある方がおられましたら農産普及課までご連絡下さい。



普及員と生産者でデータ確認

新規就農者を紹介します！

岡本 瑞希さん

岡本さんは令和2年度春に農業大学校就農科を修了し、マキノ町でイチゴの高設栽培で経営を開始され、現在、イチゴハウス2棟（800㎡）で品種「章姫」、「紅ほっぺ」を栽培しています。

高校の時から農業を志望し、一度は就職されましたが、そこで栽培に携わる仕事をするうちに自分で農業をやりたいという思いが強くなり就農を決意されました。

将来的には観光農園を始めたいと考えておられ、試行錯誤を続けながら日々、栽培に取り組まれています。



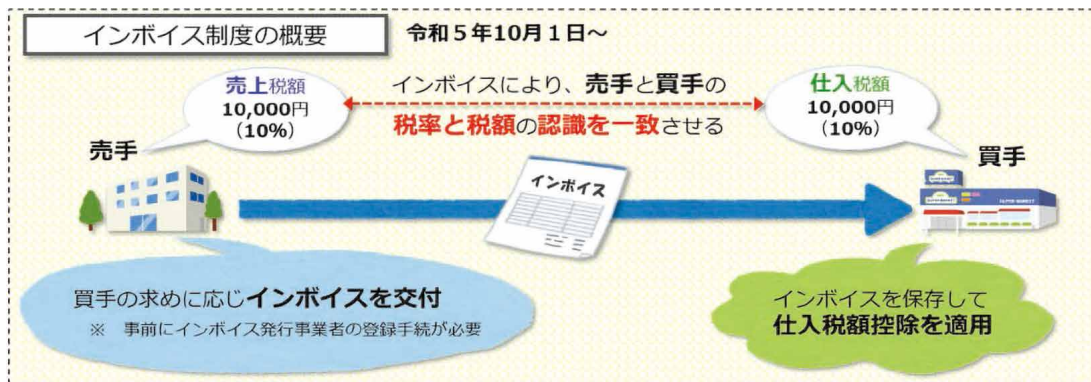
洲崎 洋平さん

洲崎さんも、令和2年春に農業大学校就農科を修了し、新規就農されました。少量多品目栽培に取り組まれ、露地圃場とパイプハウス計30aでなすやまくわ、ブロッコリーなどを栽培しています。

前職での経験を活かして、会計ソフトを活用した経営分析をされています。また、野菜ソムリエの資格を取得され、出荷先の直売所では、知識を活かした自前のポップで効果的なPRをされています。更なる販路拡大や秀品率向上を目標に日々活動中です！



令和5年10月1日から**消費税のインボイス制度（適格請求書等保存方式）**が始まります。**登録申請手続きは令和5年3月31日までに**



（図：国税庁チラシより引用）

「インボイス」とは、売手が買手に対して、正確な適用税率や消費税額等を伝えるものです。

令和5年10月1日から、仕入れ税額控除の適用を受けるためには、原則として取引相手（消費税の課税事業者）から交付を受けたインボイスの保存等が必要になります。

- ・ **課税事業者である農業者** 適格請求書発行事業者になるため、登録をしましょう。
- ・ **現在免税事業者である農業者** 適格請求書発行事業者に登録する（消費税の課税事業者になる）か取引相手等の状況も踏まえ、慎重に検討しましょう。

詳しい内容については、国税庁のHP等でご確認ください。

